第３回東北圏広域地方計画変更に関する有識者懇談会　議事要旨

１．日時

平成 24 年 9 月 4 日（火）13:00～15:00

２．場所

二日町東急ビル４Ｆ会議室

３．議事

（１）第 2 回有識者懇談会までの整理について

（２）計画変更のポイントについて

（３）その他

４．配布資料

資料１：第 2 回有識者懇談会における論点整理

資料２－１：【検証・点検結果による 12 の課題】と第 1 回、第 2 回有識者懇談会論点整理との関係

資料２－２：現行計画から変更計画への流れ

資料３：東北圏広域地方計画　計画変更のポイント

資料４：東北圏の特徴　～圏域の現状、強みや売り～

参考資料１：第 2 回有識者懇談会の議事要旨

５．議事

（１）第 2 回有識者懇談会までの整理について

＜資料１・資料２－１・資料２－２について＞

事務局より、第 2 回有識者懇談会における論点、「検証・点検結果により明らかとなった 12 の課題」と第 2 回有識者懇談会論点整理との関係、現行計画から変更計画への流れについて、説明を行った。

・　説明資料の中で、皆さんから、発言したものや提出した文章等の意向が反映されていない点等があればコメントをいただきたい。

・　非常時を常に意識した改定であることは分かるが、それに対し平時があって非常時があるということをうまくつなげていく必要があり、計画そのものは平時にきちんと通用する計画にしておかなくてはならない。戦略的目標の「環境」のところには

平時のことしか書いていないと思うが、もし可能であれば、非常時にも豊かな環境である東北を維持することが良いといった観点を入れられないか。ただ、無理に入れなくとも、「東北発コンパクトシティ」などが前提にあるので、「環境」や「暮らし」のところに非常時と平時のことが入っていれば良いと思う。

- 今回の震災を受けて盛り込むべきいろいろな課題があることは分かったが、その一方で、これからの 10 年の東北がどのようにあるべきかについては、まだ少し見えていないと思う。
- 当初の計画に対し「復興・防災」の項目を加えただけではなく、それを含めて東北はどう生きていくか、もう少し東北らしさいったことが書ききれていないと思う。
- 観光については、今回の震災を受けてかなり幅が広くなっている。今東北に見えている方のほとんどは震災の復興支援や被災地を見たい、学びたいという方である。そうした中で、普通の観光復興を目指すというより、震災のことを学んでいただく、また来られた方の応援を通して復興の足がかりをつけていくといった観光交流のあり方を東北から発信していくべきだと思う。
- 課題の「5. 防災訓練・教育の充実強化や災害の記録と伝承」に関して、防災訓練・教育というところに含まれているかもしれないが、東北の外から来た方々が学ぶ仕組みというか、外からの方々との連携を入れてほしい。
- 課題 9 のタイトルに、1 次産業や観光の分野が並んでいるが、もう少し外向きな形にするのであれば、防災等に関する新しい産業分野として、防災の建築手法、農業や食品加工における非常食や防災食といったような観点から、新しい産業を見出していくような流れも書き加えられると良いと思う。

- 課題の「2. 多様な交通モード間の相互補完、広域交通ネットワークの代替性・多重性の確立」についてであるが、日本の南北に非常に長い地理的状況の中、物流を考えた場合、遠距離になればなるほど海上輸送、具体的には内航船の果たす役割が非常に大きい。今回の震災でも大きな役割を果たしたが、もっと積極的に物流の役割を担っても良いと考えており、課題 2 の中の「多様な輸送モード間の連携強化」に含まれているかもしれないが、この中で海上物流についても打ち出しておいたほうが良いと思う。

- 「資料１」で若干ニュアンスが違うと思った点として、「２ 災害に強いまちづくり」

の中で、前回の懇談会で述べた話は、揺れ、液状化、津波というものが時系列的に発生するという話と、もう一つ、地域においては洪水や地滑りや火山や、震災以外の潜在的なリスクも考慮するという話だったと思う。なお、対応については、それも含めてまとめていただいているので良いと思う。

- 宮原先生もご指摘された東北らしい対策としては、今回の震災では、防潮林などは災害のある程度の軽減効果があった。防災においても、環境を保全すること、または自然力を強化しながら対応力、防災力を向上することが重要だと思う。
- 社会基盤としては、道路の避難場所としての活用や、防波堤、防潮堤と組み合わせるなど、多重防御というキーワードが重要である。これについて、是非、東北発で、重要性や地域毎の防災に向けた多重防御の組み合わせのパターンを発信したい。

- 「資料２－１」の課題１と２に「広域」という文言があるが、人によって捉え方に違いがある可能性がある。課題１で言っている「広域的な機能分担を踏まえた広域的な地域間連携の促進」というのは東北圏内の連携を言っていると思う。課題２の場合もそのように捉えることができるが、一方で、東北圏の中と外の関係としての広域交通ネットワークという意味合いで使うこともできる。「広域交通ネットワークの代替性、多重性の確保」はセーフティネットのことだと思うが、これは東北の中でのネットワークという意味だと思う。また、課題 10 に「地域」とか「コミュニティ」いう文言があり、これも町内会や自治会と捉えがちであるが、市町村や都道府県も地域でありコミュニティと捉えることもできる。計画の文書としてまとめる際、読み手が同じような感覚で捉えられるような書きぶりにしておいた方が良いと思う。

- 「資料２－１」の「10．地域コミュニティ確保のための絆の構築」の４つ目の内容について、文章表現が少し不自然なので修正してほしい。復旧・復興の担い手としてはＮＰＯだけではなくＮＧＯや民間企業もあるので、それらも記載してほしい。「連携の有効性」という表現も分かりやすい表現に直してほしい。連携については、例えば海外との連携が、コミュニティの再生において現場レベルでとても影響を受けているので、連携の基盤強化、あるいはは連携の基盤をつくっていくといったことを盛り込んでほしい。
- 「コミュニティ」や「地域」といった文言をどう表現するかについては、前回計画においても示した「地域づくり協働体」という表現が、現在集団移転や住宅の復興

を考える上で．集落と行政との連携がうまくいっていない事例もある中、様々な主体が地域づくり協働体として、一体としてやっていくという意味で、良い表現だと思う。

・ 先ほど皆さんから話があった「東北らしさ」については、今回は東日本大震災を受けた地域ということが東北らしさという感じがあり、「資料２－２」の「戦略的目標と主要な施策【変更計画】」の一番上の戦略、目標のところが東北らしさになっていると思う。その特徴は、従来はどちらかというと 2 次産業や 3 次産業の発展が地域の発展であるという意識があったが、今回、1 次産業、「農林水産資源をはじめとする様々な地域資源の回復と地域産業の経営強化」が東北らしさとして形になっていると感じている。
・ 原発事故を踏まえて、エネルギーに対するクリーンな意識が芽生えた。そうした中、東北には再生可能な資源があり、それをエネルギー源として考えるということで、1 次産業の重要性をもう一度見直し、再生可能エネルギーが関連する産業が発展することが、東北らしさのひとつと感じている。
・ そういう部分は、従来は産業に入れていたが、今回は東北らしさということで一番上のところに入っているのでちょっとすっきりしないが、1 次産業を重視し、そこにおける再生可能エネルギーなどを使った、できるだけ省エネルギー的な、環境に優しい地域づくりというようなことに方向性を少し変えるという形が、今回の震災を受けた後の東北のあるべき姿としてここに示されている。そのような見方について皆さんからご意見を伺いたい。
・ また、環境産業で地域経済が成長するといった形で、省エネの技術を進めることによって経済、産業を発展させ、環境を考慮した地域づくりにどのように持っていこうかとしたときに、大規模ではなくコミュニケーションや連携単位によってこそ全体として効率よく、成長していくことが背景にあり、これからの 21 世紀のあり方として東北だからできる地域づくりということが（下の第 2 節から第 6 節のところに）あるのだと思うが、どうか。

・ エネルギーの面では、災害時における自立・分散型の重要性もあると思う。

・ 一番上の「(2) 農林水産資源をはじめとする様々な地域資源の回復と地域産業の経営強化」については、震災前からも、例えば水産資源で言えば資源自体が減少して

いて、地域に新しい雇用を生み出すほどの力は無かったので、単純にその回復、経営強化だけではなく、委員がおっしゃられたように、新しい何かを見出すことを盛り込む必要があると思う。今、自治体や公民館レベルで備蓄が求められている中で、備蓄のための新しい商品開発など、新しい産業を東北から発信するといったことを入れていただければと思う。

- これからの東北の基礎となる部分として、食の部分の一次産業とエネルギーについて、東北としてどのように震災後の新しいライフスタイルを作り出すことがとても重要になると思う。
- 今話題に出た新しい産業もそうであるし、太陽光発電も生活の一部に取り入れるなど、普段から再生可能エネルギーが自分たちの生活の中にあるといったライフスタイルがこれからできるのではないかと思う。また、そういったライフスタイルに触れることで、観光に来られた方にも東北の復活する力強さをアピールすることもできると思う。
- 秋田県などでは津波の被害など大きな地震の被害は無かったが、今までの人口減少や高齢化など様々な地域課題を引き継ぎながら、交流人口が減少しているので、弱くなっている部分がある。計画の中で被災したことも大事であるが、もう少し主張してほしい点として、東北圏の中で被災しなかった地域の抱える問題についても強化していく視点も必要なのではないか。従って、東北という一つのくくりではなく、地域によって事情が違うところを、もう少し前提として書いておいてほしいと思った。

- 今回頂いた意見も踏まえ、論点整理を進めていくことでよいか。
- 私のほうで事務局と相談しながら、次回までに、できるだけ皆さんの意見を反映できるようにして整理し、整理したものを事前に皆さんに提示し、修正、とりまとめを行うという形にしたいと思うが、それでよいか。このような形で、皆さんの意見を反映させたいと思う。

- もう一点、「資料４：東北圏の特徴　～圏域の現状、強みや売り～」を見ていたのだが、電力にしてもそれ以外にしても、東北圏は他地域へ供給する割合が非常に大きい。それをフォローしていくことも一つの視点としてあると思う。

・ 震災を受けて、従来からの東北圏の役割が少し見直されているということである。大量生産し効率よく提供するという仕組みから、自立性を高め、連携していく形になっていく。
・ 東北の場合、従来と異なっている部分として、一つはエネルギーがある。これまでは日本全体のエネルギーの供給地域という点が大きかったが、これからもそういう方向で行くのか。そうではなく、できるだけ自前のエネルギーを再生可能な形で生成しながら、日本全体のモデルとなるようなエネルギー供給の仕組みを取るのか。当然、日本全体として他の地域にも供給する役割はあると思うが、そこに専念するのではなく、地域のあり方、モデルとしての再生可能エネルギーの多様性があると思う。
・ 東北の特徴として森林が多い。再生可能エネルギーの基は太陽光などが言われているが、1 次産業の木材関連の役割が大きいと思っており、これを地域の柱にすることがポイントだと思う。ドイツでは自動車産業の規模が 24 兆円くらいだが、木材関連産業も林業、家具、住宅など全て入れると 20 兆円くらいになる。東北においても木材資源があるので、それを踏まえた地域のあり方として、従来からの強みを活かしながら、新しい強みを増していくことが東北のあり方だと思う。そういった形で、森林を活かすことによる再生可能エネルギーとか、それを基にした地域の観光のあり方とか、様々な形で森林が使えるのではないかと思う。
・ 木材関連産業の一つの特徴として、多様な労働力、つまり中高年の人が働く場所がたくさんある。高齢化が進む中での働く場所の提供として、農業をはじめとする一次産業の役割が十分大きく、そこに東北の強みがあると思う。東北の強みがどれだけあるか自信を持つといった、地域の中の人達が自信と誇りを持てるようなものも今回の計画の中に出せるといいと思う。

→ 一つ悩ましいのは、「資料４：東北圏の特徴　～圏域の現状、強みや売り～」のＰ4 にもあるように、産業別の総生産額で見ると、東北でも 1 次産業は全体の 2.5%である。経済的にはそういうウエイトなので、特に被災地においては 1 次産業、水産業や農業等で新しいことを言いつつ、トヨタ自動車の進出のように、2 次産業、そして 3 次産業、そのそばに観光を含めて様々なサービス業があるといったことをバランス良く訴えていくことが良いのか、それとも先生がおっしゃるように、東北には豊かな農地等もあるので、1 次産業にウエイトを置いて計画を出し

ていった方が良いのか、悩ましいと考えている。

・ 例えば、トヨタに代表される自動車産業など、新しい産業も当然受け入れる。そこには若い人や技術があり、それはきちんと考えていく。
・ 一方で、中高年など、そこからはじかれる人もいる。この部分に光を当てるというところに１次産業がある。１次産業だけで食べていくという考えはさらさら無い。関東や首都圏で、１次産業で労働力を吸収しようとすると土地の問題などいろいろあるが、東北であればできるというところがあるのではないか。この地域の強みを活かした形として、一次産業にもう少し光を当てたら良いのでは感じる。よって、自動車など新しい先端産業も排除するのではなく使えるような形にする。
・ ここで、エネルギーが多量に必要になってきたときに、エネルギーの供給量を増やして受け入れるようにするのではなく、節電エネルギー的な産業も活かすことによって全体のバランスが取れるようにすることがポイントだと思う。
・ 世界では、先端産業があるところの近くには自然がある。そのバランスが産業を発展させていると思う。東北はそうした地域だと思う。先端産業と１次産業の両方とも元気になっていて、高齢者も働けるといった地域のあり方も良いと思う。自分たちで自立できることはして、中高年とか森林資源とかを活かしながら進めていくといったような、エコを考慮した社会のあり方という中でのモデルになると思う。

→ 量などにこだわると夢を語れない。夢ばかりを書くと、それだけで食べていけるかという議論になるので、それをこの計画を今回どのようにしていくかが悩ましいと思っている。

・ 逆に言うと、2 次産業、3 次産業の人材供給をするときは、一次産業のウエイトの高いところ、自然との関わりが大きいところほど、そういう時に役に立つ人間が含まれる可能性がある。自然と接触した人間のほうが、先端な技術では伸びると言われている。そういう形でも、１次産業の重要性があるのではないか。

・ 1 次産業といっても農・林・水産業では大分違うと思う。新潟県では、農業はそれなりにやっていけると思うが、林業に関してはほぼ壊滅的であり、災害が起きるのは林業がだめだからと言われるくらいである。人材がいるのかどうかという時に、若い人が基本的にそのような仕事を嫌がるとすると、70、80 歳の方で今まで林業や

ったことない人が山に入るというのは大丈夫なのか。

- 東北で 1 次産業と言った時に、どのくらい 1 次産業に従事してもらって、どのくらい 1 次産業を強化していくか。事務局も言っているとおり、夢としては書けるけれど、東北が食えるかどうかというところが少し心配である。これ以上若い人の 1 次産業への供給がされないとすると、人材が供給されないことには産業は成立しないので、そうした中でどう変えていくのかを詳しく、慎重に書いた方がいいと思う。
- 2 次・3 次産業にまい進しろという気はなくて、1 次産業は非常に大事だと思うが、ある意味逆手にとって、2 次・3 次産業で稼いでおいて、余裕の部分は 1 次産業で稼いで、その部分は他の圏域に提供するというぐらいでもいいと思う。

- 誤解を与えたかもしれないが、私が先ほど言ったのは、林業では無く木材関連産業であり、木を使った産業を見直したらどうかということである。
- 日本全体は、木については 25%しか国内では使っていない。林業はなぜ弱いのかというと、木の値段が安いからで、もう少し木の利用範囲を広げる取組として、農業が独自産業という形でやっているように、幅広く川上から川下まで全体として考えるという形にすると、もう少し魅力が増すのではないかと思う。
- 場合によっては仕組みを変えるということもある。例えばドイツとか、林業については所有と経営を分離している。日本の場合は所有と経営が一緒になっている。もう少し木材に関する意識を変えたときに社会のあり方がどうなってくるかっていうところを含めると、ある程度大きな産業となり得ると思う。
- 震災、エネルギー問題を受けて、再生可能エネルギーをどうしていくかが一つのきっかけだと思う。すんなりとは行かないが、ある程度東北の強みを生かすような形で何か方向付けができないかと考えている。

- 1 次産業としては、食べ物は私たちの命を支えていく資源であり、東北はそこを強化していくべきと思う。
- 東海・東南海地震など、これから将来、別の地域で相当大規模な地震や災害が起きた場合に、今度は東北が助けられる側ではなく、支援をする側に立つことになる。そのような中、震災を受けた後、早く自分たちの基盤、足腰を強くし、東北を作っていくためには、まず食べ物であるとか、エネルギーとか、そういったものを自分達が主人公としてどこまで確保できるか、また産業としてものを作り上げていくというような考え方が非常に重要だと思う。

・ よく震災を風化してはいけないと言うが、震災が起きたときに皆が考えたこと、工夫したこと、解決したこと等を忘れてはいけないと思う。また、その考え方を未来の若い人たちにも伝えていくべきだと思う。

・ 農業が大事だと言われるのであれば、東北は、農地はもう絶対潰さないというような前提であると言い切れるのであれば、それでもいいと思うが、今東北のいくつかの自治体から話を聞いているところによると、結局、農地の維持がままならない状況と聞いている。
・ しかしながら、大規模経営すれば、少なくともカロリーベースでいくならば、食料は東北で自給自足できる。なおかつ余るから、そこで他の所に提供できるというようなことを前面に打ち出すのであれば、全てのことがそのように成立しているのであれば良く、例えば工業を誘致しても優良な農地は潰さないとか、そういうことを位置づけてくれるならその方が絶対良く、東北の強みになると思う。漁業についても水産業を脅かすような開発は全くしないようにするというように、そこはそれできっちり筋を立てておけばいいと思う。
・ エネルギーと食料に関しては、自給自足できるのは多分北海道と東北だけであるが、北海道は、エネルギーは自給できるけど他には供給できない。東北プラス新潟であれば、エネルギーも自給できるし、余った場合には少しはお譲りできるという体制を構築できるし、食料もそうできると思う。その他の人材供給も全部自給自足できて地産地消できるけれども、余ったものについては提供できるといったことがこの計画のベースにあるということならば、それで通してもらえばいいと思う。それであれば、夢と現実が一緒になると思う。そういう意味では製造業等も同じことだと思う。

・ 農林水産業の可能性のところで、高齢者に関しては、例えば林業は林産業とかキノコ生産とかも全部入るので、林業だから高齢者が入りにくいのではないかということは、広く見れば無いと思う。
・ 最近、人との関係を築くことが難しい若者がすごく増えている。それはもはや若者だけではないと思う。普通に会社で働けない要因として、社会で働くことは人との関係で成り立っている部分が多く、三次産業とか、サービス業では特にそれが多いことがあると思う。そういう人は、一次産業でコツコツと毎日同じことをするという働き方もある。昔はそういう働き方も多くあったので、そういう問題が見えなか

ったところがあると思う。ここで高齢者をクローズアップされているが、そうではなく、広く様々な人が働ける産業としても、一次産業の可能性はあるのではないかと感じている。

・ 東北発信ということで、例えば防災の文化として津波てんでんこや石碑などが今回認識されたが、やはり東日本大震災を受けて、次の新しい文化を発信しなければならない。例えば石碑だとしたらマーカー（指標）にはなるが、津波の怖さはわからない。それを何とか、遺構やデジタル的情報・資料なものを残して、それで当時の怖さをきちんと伝えてあげるということは新しいことである。
・ また，例えば、先日 9 月 1 日に岩沼市で避難訓練があったが、そこでのテーマは「カケアガレ日本」であった。避難は例えば校庭ではない、体育館ではない、必ず学校であれば三階、四階建ての上まで行こうというものである。「カケアガレ」は復興や再生という意味合いも持つ．そういった一つのかけ声というか、文化発信を、全国の西日本や首都圏に行っていくことが重要だと思う。

・ これまでの第 1 回、第 2 回の意見を踏まえ、12 の課題の位置づけが「資料２－２」にまとめられている。これに対し、本日の皆さんの意見も反映させた形で、私も事務局と相談しながら、次回までにまとめることにしたい。

（2）計画変更のポイントについて
＜資料３・資料４について＞
事務局より、計画変更のポイントと東北圏の強みについて、説明を行った。

・ 計画変更のポイントについて分かりやすくまとめたものが「資料３」であり、これに基づいて今説明を頂いた。これから、皆さんからご意見を伺いたい。
・ 今回の計画変更のポイントとして、柱立てとして 3 つ、「東日本大震災からの復旧と復興」、それから「原発事故の克服」、それから「活力を創出する産業の育成と形成」という三原則の柱で、その中のポイントはその下にあるような 5 つの重点事項という形にすると分かりやすいということでまとめてあるが、いかがか。

・ 3 つの柱立ての一番右、「活力を創出する産業の育成と形成」のところを、「東北の活力を創出する産業の～」というように加えていただければと思う。

・ 「再生可能エネルギーの利用促進」についても、ゴールが見えにくいので、「再生可能エネルギーの利用による新たなライフスタイルの構築」まで書いていただければ、今までの議論ともつながると思う。

・ 3 つの柱立ての一番左、「被災地の復旧と復興、圏域の防災力強化」について、「被災地」という表現だと地震、津波の被害があったところのみをイメージするが、秋田県や山形県も少なからず影響はあるのだから、「被災からの」といった表現にしてほしい。
・ 重点事項については、3 つの柱立てを目標とするために行う項目という位置付けなのであれば、重点事項と計画も少しリンクしてこないと説得性が無いと思う。「資料２－２」の「戦略的目標と主要な施策【変更計画】」の新たに追加した３つの主要な施策のみ、あるいはもう少し増えてもいいが、リンクが分かる形の方が良い。「資料３」に示されている５つの重点事項が良いかは、この状態では判断しかねるところである。

・ 課題と柱立ての関係を見えるようにしてほしい。また、3 つの柱立てを強調してやるべきことが重点事項となるのであれば、5 つの重点事項が 3 つの柱立てとどのような関係にあるのか、関係が分かるようにしてほしい。柱立てが 3 つだとすると、その中から抽出してきた 5 つの重点事項はそれぞれの柱立てに対してどういう貢献をするものなのか、何を強化するものなのかが見えるようにしてほしい。

・ 「12 の課題」はそれぞれ方向性が違う。12 課題をそのまま並べるのではなく、いくつか整理して、最終的には「生業・暮らし」とか「安全・安心」につなげて、それが 3 つの柱立てにも関連すると思うが、それならば「生業・暮らし」とか「安全・安心」は下に来ると思うので、今記載されている配列は良く分からない。むしろ、12 の課題を単純に並べても良いのではないか。この部分がフローとして読みにくい。

・ これについては、私は「生業・暮らし」や「安全・安心」がやらなければならないことだから一番トップにあって、それを支えるインフラとして「エネルギー」や「連携・交流基盤」があるから、下から支えているというように読んだので、私はそれほど違和感無かった。それで「新たな公」と「医療・福祉」はそれをサポートするものだと思う。

・　「資料２－２」と「資料３」の間で若干整合性が取れていないところがあるのと、「資料３」についても上から下まで読むようなスタイルになっているので、もう少し工夫する必要があると思う。

・　計画変更のポイントについて、「資料３」のような形でまとめることについては異論が無いということで良いと思うが、その中の因果関係というか、矢印のところをもう少し分かりやすい形に持ってくることがポイントだと思う。あと、「資料２－２」からの関係性がもう少し分かると、「資料３」が理解しやすくなるかと思う。

・　「12 の課題」の隣の「東北圏の現状と課題」や「東北圏の強み」のところは、今回の震災とは関係しない一般的なことが書かれているが、ここでは敢えて、震災があって、それに対して対応できた、できなかったことといったような特徴が書かれていたほうが良いのではと思う。

・　事務局のほうで、アドバイスいただきたい点があれば質問してほしい。

→　「資料３」の意味合いとしては、今回の計画変更により何が課題となっていたのか、それから懇談会でどういった議論がなされ、そこから 3 つの柱立てを導き出すために鳥瞰できるように整理したものである。

→　因果関係等を分かりやすくという議論をいただいているので、もう少し工夫したい。

・　この 1 枚紙でいろいろと説明するのであれば、左上の「検証・点検結果により明らかとなった 12 の課題」について、誰が「検証・点検」をしたのか、プロセスというか、フロー図のようなものがあった方がより分かりやすいと思う。

・　上のところは、課題と、将来のポイントとか強みがあると思う。そうすると、「12 の課題」と「東北圏の現状と課題」は一つのくくりで、あと「東北圏の強み」と「有識者懇談会から抽出された将来の発展のポイント」をもう一つのくくりで、そこから 3 つの柱が出てくるという方が見やすいと思う。

・ 12 の課題の右側にあるものをどう位置づけるかというときに、被災していなくても東北圏の強みはあったはずなので、それがまずある。それから、将来の発展のポイントも、もちろん被災後に方向転換、顕在化はしたものもあるけれども、原発事故への対応以外は被災していなくても進めたほうが良かったようなことだと思う。こうした、まずベースになるようなものがあって、それに対して左側の「検証・点検結果」は、これは変更計画の反映すべき項目なので、それが 2 段目にある。その 2 段目の作り方はちょっと難しいと思うが、12 の項目それぞれが 3 つの柱立てのどれにどう寄与するか、矢印が書けるのではないか。
・ 最後に 5 つの重点事項は、縦に 5 つ並べておいてもらって、それぞれ結びつくようにすれば、柱立ては具体的に重点事項のどれにつながるかが分かると思う。柱立てのそれぞれの 3 つから、最大 3×5 の矢印が出てくるというイメージである。そして、上は 12 の課題から 3 つの柱立てに対して、どのように出てくるかいうような書き方をすると、もう少し説明しやすいと思う。
・ そこに先ほど委員が言ったように、主体が書き込まれれば分かりやすいかもしれないし、計画変更のポイントということなので、何が課題で何が柱で重点事項は何だと言ったときに、どういうつながりなのかっていうのが分かるようにすることと、「資料２－２」ともうまくつながっておいたほうがいい。よくいろいろな計画書を見ると、課題があって、やるべきことがあって、そして重点事項いうことが、シーケンシャルになるようになっているのが多いと思う。

→ 前段のプロセスのところは、ご説明はしていたと思うが、3 本の柱を最後は据えて、そこに具体性のある、こんなこと取り組んでいきますといったものを、皆さんへの説明に使うのが良いかと事務局では話していた。これを一連の因果関係というか、こんな作業してここに持ってきましたというようなことを説明する資料が今日の資料になっている。そこが重点なのか、実際、ポイントを 3 本柱でやりますと、それは具体的にこんなことですということで、最終的な説明資料を作るのか、そのあたりも考えているところである。

・ 見せ方だと思う。普通は、計画は、左から右に書いていくときに一番大事なことを真ん中に大きく書いておく。左がそれのインプット事項で、3 つの柱が大きく出ていて、そこから派生するものが 5 つの重点事項で右側に流れていくという視点で、

そして真ん中をとにかく見てくださいと説明すれば良いと思う。

→　もう一つ、この 3 本柱で良いかどうかというところで、今日お話しを伺っているところであるが、防災文化の発信の話とか、今回の震災で失うものばかりではなくて得たものがあるし、気付いたことがある。震災があった中で、こういう時に東北は強いとは、やはり食があり、エネルギーがあれば、経済がどうなろうが何しようが生き抜いていけるという、そういう土地柄があると思う。「防災のメッカ」があるとか、そういうことで東北を PR する、あるいはまた他の地域についても支援していくといったことが、ここに一つ入ってもいいのかなと思っている。

・「資料３」の「有識者懇談会で抽出された将来の発展ポイント」にもう一つ加えていただくか、「実現のための手段」に加えていただければと思ったこととして、今の副局長のお話とも関わるが、震災のときには多くの自治体の方やよその方から支援をいただいた。また、復興ボランティアで東北以外や外国からも多くの方がいらっしゃった。震災で得たものとして、新たに創出された人的ネットワークの強化や交流人口の拡大を加えていただいて、モノだけじゃなくヒトの力も巻き込んで東北が強くなるといった形で位置づけていただければいいのではないか。

・「実現のための手段」のところに、企業誘致と書いてあるが、前回懇談会で言っていたのは、皆で再生可能エネルギーを見直して、東北で作っていこうというような雰囲気で、誘致という話では無かったと思う。

・誘致ではなくて、創造というか、要するに、新しい再生可能エネルギーの産業を育成するということであろう。

・省エネの産業とか、省エネ関係の技術革新とか、大学が今回の震災を受けて行うこととして、エネルギーをより有効に使うための工夫がこれから出てくるのではないかと思う。電気も節電、LED などを、もっと東北は意識的に進めるといった研究の先端というような形が出てくるといいと思う。それから、今まではエネルギーというと電気であるが、熱を電気にすると効率が悪い。だから熱をそのまま使う工夫を考えたらどうか。例えば農業関係のハウスで、従来の重油とかからの電気を使うのではなく、熱そのものを使うという形、そのときの熱源も重油を使わないでバイオ

マスやごみ焼却場の熱とか、再生可能なものをできるだけ使う工夫をする、環境にやさしい生産システムを考えることがポイントだと感じる。その時に先ほど言ったような木の役割をもう一回考えるのもポイントだと感じる。

・ 「資料２－２」と「資料３」を同時並行的に作成しているのでずれが生じてきていると思う。「資料２－２」を詰めていけば、自動的に「資料３」が出来上がるのではないかと思う。

・ 今回の意見を踏まえ、事務局で作業を進める。
・ その際に、事務局から問い合わせることもあると思うので、ご協力願いたい。本日欠席されている方々にも、インターネット等でお聞きしながら進めたい。
・ 次回の会議までにいろいろな作業があるが、できるだけ皆さんの意見を反映できるように私も参画していきたいと思う。
・ 「資料３」については、基本的な方向性は良いが、あとは、少し説明を分かりやすくすることと、「資料２－２」とのリンクを少し考えてまとめたい。

→ 本日頂いた議論を集約させていただき、中身を修正させていただいたうえで、その都度皆さま方にもう一度ご意見を伺わせていただきたい。
→ それとは別に、我々の方で計画の素案も作成中である。次回はそのたたき台も含め、提示できればと考えている。時期的には 10 月中には開催させていただければと考えている。

以　上

（速報版のため、事後修正の可能性があります）